

問 女子トイレへの 生理用品設置に関して

答 日常的な相談しやすい環境づくりを



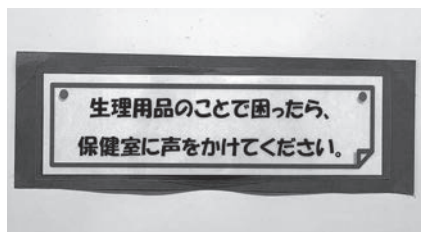
おのだ なみえ子 議員

問 小・中学校時期の生理への対応で重要なのは、月に1回「妊娠の準備」のための現象を正しく理解し、正しい対応を女子児童・生徒が等しく習得する「生理の大事さ」を学校全体で共有できる取り組みと考える。

城里町の中学校では生理用品をトイレに設置し、補充は掃除当番の子が進んでやっている。それまで「生徒がトイレに生理用品を持って行くのに神経を使っていた」ことや「急に生理になった時困っていた」などが解消され、喜ばれている。

と聞く。先生と児童・生徒、指導室や教育委員会等、関係者で設置について意見交換を行っているだろうか。

答 教育現場では、子どもが困った時に、自分で発信し、切り抜けるスキルを身に付けさせる必要がある。日常的な相談しやすい環境づくりに努めるとともに、今後、議員からお示しいただいた取り組みを校長会や養護教諭部会で紹介し、児童生徒の意見等を聞く機会を設けていきたいと考えている。



村内学校的女子トイレの洗面所に掲示されているメッセージカード

問 本村の不登校支援の 現状と方向性は

答 一定の成果あるが課題も認識



光風会
むらかみ しほ 議員

問 本村の不登校児童生徒支援の現状は。

答 中学校内フリースクール設置から2年経過し、教室に入ることができない生徒が安心して学べる場として一定の役割を果たしている。教育支援センターたんぽぽは、児童生徒の状況に応じた相談支援や通所による学習・生活支援等を継続して実施している。

問 小学校の不登校児童支援がさらに必要だが対策は。

答 小学校内フリースクール設

置は課題も含め検討していく。本村で予定されている民間フリースクールの開設は、学びの場の選択肢が広がる点で大変意義がある。

問 民間フリースクールとの連携の具体的な内容は。また民間施設の運営者や利用者に対する補助事業を検討してはいかがか。

答 県のガイドラインを踏まえ、児童生徒の状況に応じた学びの選択肢が広がるよう、適切に対応したい。補助事業は他自治体の実施状況、目的や効果などを踏まえ、選択肢の一つとして研究してゆく。



図書館の隣にある教育支援センターたんぽぽくらぶ